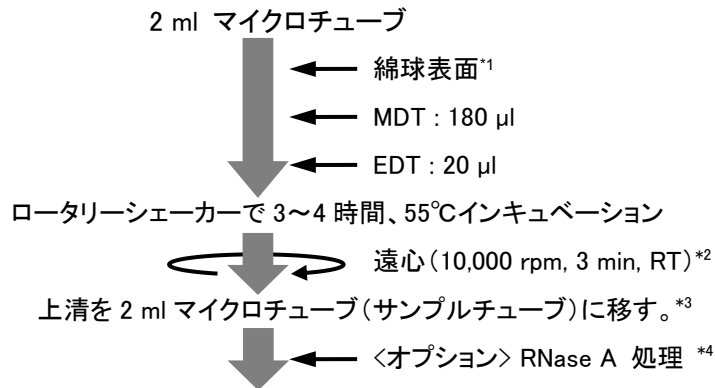


DA-b-10

自動処理_口腔粘膜からのゲノム DNA 分離

プロトコル



装置 (QuickGene-Auto12S/24S) にセット

 Protocol: DNA TISSUE
 (溶出液量 : 200 µl *4)

*サンプルチューブのセット方法については、

Quick Start Guide または取扱説明書を参照してください。

1. Pre-Heating (3 分間)
2. 180 µl の Lysis Buffer(LDT) を添加
3. ピペッティングにより攪拌
4. インキュベーション (60°C, 5 分間)
5. ライセートを移液後、240 µl のエタノール (>99%) と混合
6. ピペッティングにより攪拌
7. ライセートをカートリッジにアプライ
8. 加圧
9. Wash Buffer(WDB) で 3 回洗浄
10. 溶出液(CDT) を添加し、ゲノム DNA をコレクションチューブに回収

ゲノム DNA

*1 綿棒で口腔粘膜採取後、乾燥保管。綿棒の綿球の表面半分をメスではぎ取る。

*2 溶解残渣分 (溶け残り、ゼラチン状) を分離除去するために遠心します。

*3 推奨のマイクロチューブ
 #BM4020 (ビーエム機器)
 #72.695.700(SARSTEDT)
 #72.695.500S(SARSTEDT)

*4 オプションステップ
 RNaseA: 20 µl
 タッピングして溶液を混合
 軽くスピンドウン
 室温で 2 分間放置

*5 推奨溶出液量は 200 µl です。
 溶出液の容量は 50 µl まで減らすことができますが、その場合、溶出効率が低下する可能性があります。

結果

ゲノム DNA の収量

サンプル ID	#1	#2	#3	#4	#5	#6
収量 (μg)	0.50	0.50	0.52	1.02	0.36	3.09

タンパク質の混入：A260/280

サンプル ID	#1	#2	#3	#4	#5	#6
A260/280	1.87	1.94	1.97	1.90	1.59	1.97

共通プロトコルサンプル

サンプルの種類・保存条件などによっては分離できない場合があります。
データに関しては保証しておりません。
分離した核酸には目的以外の核酸（例：DNA 分離には RNA）が含まれています。